



LD等発達障害児・者親の会  
「けやき」機関紙

第105号

2014年6月発行

発行者・代表 三輪 覚子  
けやきホームページ URL

〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8  
[http:// keyakitokyo.web.fc2.com/](http://keyakitokyo.web.fc2.com/)

## 平成26年度 総会報告



### ご挨拶

皆さま、いかがお過ごしですか。

いつも「けやき」の活動をご支援いただき、本当にありがとうございます。  
平成26年度も、引き続きよろしく願いいたします。

さて、平成26年度総会は4月26日（土）に本部役員のみでの開催となりましたが、活動の方針や予算が承認され、新年度をスタートいたしました。会員が集まらない状態には、やや不安も残りますが、皆で力を合わせてまいります。

年間を通して、例会会場で、また郵送・振込みで、継続や新規入会の受け付けを続けていきたいと思っています。会員を増やすことは、活動をより活発にするために大事なことを考えておりますので、そのための行事の企画や、関心の深い内容を取り上げる努力をしております。

また、少人数には少人数の良さがあることも忘れず、一人ひとりの声を聞き、皆で考え合える交流を第一に、「親の会けやきの会員でよかった」と思えるような会になれるよう、意見を出し合い、手を取り合っていきたいと思っています。  
今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

三輪覚子

## 7月例会のお知らせ・・・皆さま、お集まりください！！

日時：7月27日(日)13:00～16:30

場所：東京都多摩社会教育会館 202研修室

内容：NHK 厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ

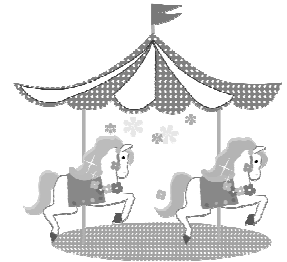
「発達障害の子どもたち～自立をめざして～」の鑑賞と意見交換

第3巻「我が子と歩んだ20年」井上雅彦氏(鳥取大学教授)解説

※発達障害のある4人の我が子を育てた、ある母親の歩みからヒントを探る

全3巻あるDVDから、第3巻と一緒に鑑賞し、その後意見交換して交流しましょう！

## 4月講演会の報告 「発達障害のある人の居場所作り」



4月26日（土）けやき総会のあと、

### 発達障害のある人の居場所づくり いつでも行ける憩いの場所

#### 「NeccoCafe」と就労継続支援B型事業所をたちあげて

と題して「一般社団法人 発達・精神サポートネットワーク就労継続支援B型ゆあフレンズ&グループホームねっこや 理事長の金子磨矢子さんと、ゆあフレンズ職業指導員の山本純一郎さんに講演をしていただきました。

金子さんも山本さんも発達障害当事者であり、同じ困難を抱えた仲間と会ってみたい直接話をしてみたいという思いが、いつでも行ける居場所作りへとつながり、障害者総合支援法施行も後押しとなって、ゆあフレンズとNeccoCafeができあがりました。

《カフェの営業時間は毎日午後12時から18時までですが、その間何時間でもいることができます。厳選した生豆を自家焙煎したコーヒーや24時間水出しのアイスコーヒー、

発達障害のある人のためにブレンドされたハーブティーが好評です。スタッフも全員当事者で、午前中の掃除から連係プレイをして、具合が悪くて休んだり、休憩する人が出ても大丈夫のように余裕を持ったシフトが組まれています。

発達障害者の雇用促進を目指して作られた就労継続支援B型ゆあフレンズは職業指導員や精神保健福祉士などのスタッフもみな当事者で、発達障害当事者による当事者のための事業所は国内初と言われています。メインはIT関係で、初心者には電源の入れ方から指導しています。12台のパソコンを使ってホームページ作成やポスター、チラシ等を作成しています。その他ビーズのアクセサリ作り、Tシャツから紐を作りバッグに編んだりもしています。

Neccoではだれも排除しないことをコンセプトに、さまざまな当事者研究会や勉強会を行っています。》（講演および雑誌の掲載記事より）

Neccoでは他にもグループホームやシェアハウスと盛りだくさんの活動をしていて、就労継続支援B型等を作りたい方にはノウハウを提供していただけるそうです。講演の最後に金子さんが「発達障害者はまじめでやさしくてだまされやすく、損ばかりしている人が多い。みんなで力を合わせてできることをカバーし合い、努力して生きていか



なければならぬ」とおっしゃっていたのが印象に残りました。

当日は Necco が TV 取材された際の録画の上映もあり、見応え聴きごたえのある 2 時間半となりました。みなさんもぜひ一度 NeccoCafe に出かけてみませんか。

Y. M



### 講演会参加者の感想より

・ Necco カフェは何度か伺わせていただいておりますが、設立でのお話が聞けて良かったです。また自分は健常者ですが、他の健常者へ障害者のことについてどうアピールしていけばいいかが分かりました。ありがとうございました。

・ Necco カフェは以前訪れたことがありましたが、あの場所の歴史やスペースの利用の方法等が良く分かりました。短い時間でしたが、充実した内容の時間を過

ごすことができました。自分からもこのカフェや活動を、大学で広めていけたらと思います。また、自閉症のいところがあるので、彼と接する時にも何ができるか考えて接することができればと思います。

・当事者にしか分からないことは本当にたくさんあるのだと思います。目に見えないものは理解できない、その事実が悲しいと思いました。行政のサポートも十分でないことを私もよく知っているので、実際話を聞くと、余計に歯がゆくなりました。できることを積み重ねていこうと思います。

・ Necco 誕生の経緯を知ることができて良かったです。当事者でないと分かり得ない感覚過敏への配慮や、活発な当事者グループの活動など参考になりました。「居場所が大事」とおっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。Necco の取り組みをととても有り難く思い、勇気が出ました。

・仲間づくりから拡がり、色々解決しようと考えていく中で形になってきたのが、今あるカフェや B 型作業所となっていたという内容。多くの方が望んでいても、例えばけやきの会でも拡がりが見えない。どこが違うのかなあ〜。グループホーム考えてゆきたいなあ〜。

・居場所のある大切さがよく理解できました。「できること・できないこと」をお互いに認めて、支え合える社会。そんな社会になるといいですね。

・ありがとうございました。なにか希望を持てた気がします。当事者の方のことばが、一番参考になり、心にひびきます。

・大変勉強になりました。一般的に発達障害を理解するのはむずかしいと痛感しました。ありがとうございました。

(この他にもたくさん感想をいただきました。)



# 全国LD親の会第7回総会報告



日時：6月14日（土）13：00～14：20

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 研修室 402

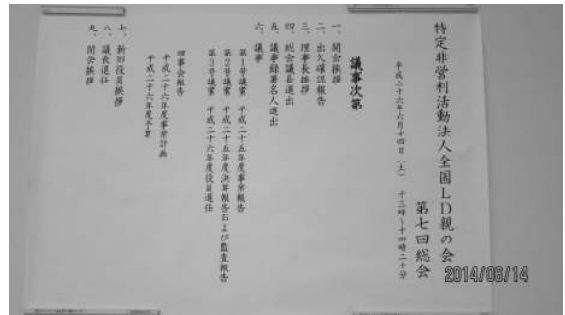
今年も全国LD親の会が、表記日時・場所にて開催されました。

まず、東條理事からの挨拶がありました。その中でアメリカ中心に使用されている発達障害の診断基準書が改訂され、日本精神神経学会による邦語訳では

「～障害」が「～症」という呼び名に変わるものがあるとのお話がありました。“障害”という言葉は重い、ということのようですが、受け止め方はソフトになるが対応が軽くなってしまっているのではないかと、という理事長の言葉が心に残りました。

その後、第1号議案（平成25年度事業報告）、第2号議案（平成25年度決算報告）第3号議案（平成26年度役員選任）と続いて満場一致で可決されました。新年度の事業計画と予算も提示されました。最後に、新旧役員の挨拶がありました。長い方は10年以上役員をされていらしたとのこと。そういう方々のご尽力また、本日集まっていた全国の親の方々の地道な活動のおかげもあり、発達障害を取り巻く環境が少しずつ良くなってきたのではないかと思います、勇気と元気を戴いた一日でした。

A. Y.



## 全国LD親の会研修会報告

全国LD親の会 研修会に参加して

6月14日の全国LD親の会総会後、出来立てホヤホヤの「LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書II」と、「新潟いなほの会」による「新潟県の高校の現状と課題」についての発表を参考に、参加者が自由に意見や情報を出し合う「高校生アンケート結果から見えてくるニーズ」と題した研修会が行われました。

### ①アンケートから見えてきたこと

全国LD親の会東條理事長より、アンケートの読み方と概要について、説明がありました。



### ②新潟いなほの会の発表

新潟県では、中学校の特別支援学級から特別支援学校高等部に進学する生徒が増加し、高等部の増設が進むとともに、普通高校（定時制等）に進学するケースも平均して20%程あるそうです。義務教育や特別支援学校とは違い、普通高校は障害を持って入学してくる生徒を支援する経験がまだ十分ではなく、教師間の情報共有や特性に応じた支援が難しい、キャリア教育への取り組みが低い等が課題というお話でした。



### ③グループ討議

①と②を踏まえ、意見を出し合いました。私の入ったグループでは、「高校選びに失敗すると、後を引きずる」「そのためには、自己理解は早いうちから」「自己理解には告知が必要だけど、報告書を見ると親が告知をしている場合が75%で、やっぱり親が頑張っているのかな」という意見や、『高校での発達障害の理解』の項目で、「前回の調査と比較して、学校として発達障害の理解は進んできてはいるものの、『発達障害に理解のある教職員はどのくらいいますか』という問いでは『半数以上～殆ど』の割合が少なく、『分からない』が多いのは、発達障害という言葉や内容を知っていても、実際にどう対応していいかが分からない先生が少なからずいらっしゃるからではないか」という意見が出ました。他地区の高校での取り組みも伺いながら、短い時間でしたが、活発に互いの考えを交換していきました。



気軽な雰囲気の中で初対面の皆さんとも自由に会話ができ、心に留まるものがたくさんありました。その場で結論を出すものではないので、全国の皆さんからいただいたヒントを持ち帰り、例会等で「けやき」の皆さんとも共有していきたいと思っています。

H

## 第13回全国LD親の会 公開フォーラム

日時：6月15日（日） 10：00～16：40

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 レセプションホール

本年1月20日、日本は障害者権利条約を批准され、今後は2016年4月に向け基本方針並びにガイドラインが作成される中、本日のようなフォーラムが開催されたことはとても意義があるものと思います。



### （1）「発達障害のある子供の教育と合理的配慮～豊かな学びと生活を確かに保障していくために～」

柘植雅義氏（筑波大学 教授）

子どもだけでなく、教師も保護者も多様化する中、一人一人の多様性の把握と対応が重要となり、難しい時代になった今こそ、発達障害教育の質を問うチャンスではないかとの話がありました。必要な合理的配慮を自らが訴えることで、関係者と合意形成をやっていくことになります。このためにも保護者が大きな役割を果たし、全国LD親の会等への期待が高まるものと思われることから、当親の会が基礎的環境整備になるのではないかと考えていると話されました。インクルーシブな社会を目指すことについてはアメリカのIEPから学び取ることができるとのことで、「アメリカのIEP」という本を紹介されました。



また参考として次のホームページをご覧ください。

国立特別支援教育総合研究所 (<http://www.nise.go.jp/cms/>) の「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」→「Q&A」→「インクルーシブ教育システム構築に向けて（保護者向け）」のページを参照ください。

### （2）「発達障害のある高校生の実態調査～NPO法人全国親の会・会員調査より～」

東條裕志氏（NPO法人全国親の会 理事長）

全国LD親の会の会員中アンケート調査の対象者は596名で有効回答数が375名（59.9%）の結果が発表されました。これを学校や地方自治体への話し合いの場での資料として活用して頂きたいとのことでした。

### （3）「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と合理的配慮」

大山真未氏（文部科学省 特別支援教育課 課長）

金田弘幸氏（厚生労働省 職業安定局障害者雇用対策課地域就労支援室 室長）

全児童生徒数が減少しているにも関わらず、特別支援教育を受ける割合が増えています。特に学習面で著しく困難を示している児童生徒が増えているが、著しくない児童生徒もいることを忘れてはならない。このことから、発達障害に対する各予算が大幅に増え、教育のみならず就労についても国として力を入れていることが分かりました。

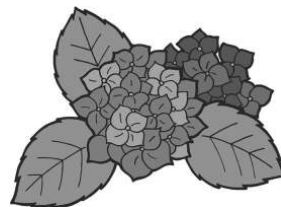
### （4）「障害のある子どもの心理」心理的疑似体験

両川晃子氏（信州大学付属病院 特別支援教育士 S.V.）

心理的疑似体験（ワークショップ）を通して障害者の心理を理解できたと思われます。

## 自主グループ活動報告

### ポーレ ポーレ



ポーレポーレの活動も早いもので15年目を迎えました。

今年度も例年同様月1回の活動をしておりますが、活動内容も散策、野球観戦、映画鑑賞、調理といった毎年恒例となりつつ内容のものに定着しており、メンバー達も繰り返しの活動に慣れてきたこともあり、落ち着いた様子で取り組んでいる様子が感じられます。

4月、活動拠点である国立の散策をメンバー一人が提案し、その提案者が「散策マップを参加人数分を用意したいので参加人数が分かったら知らせてください。」とのメールを私に送信してくれました。

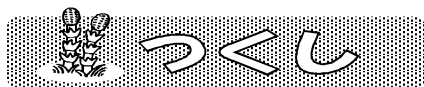
当日はボランティアの方が不在という事で、先頭に立って皆を引っ張ってくれる一人のメンバーに電話し、皆をまとめて活動してほしい旨の依頼をしたところ、「出来る限り頑張ってみます。」という頼もしい答えが返ってきました。

5月、調理活動の当日、ボランティアの方へ用があり、活動場所を訪れました。何年ぶりかで見えるメンバーの姿にホッとするものを感じました。手際よく一所懸命調理しているメンバー、洗い物を得意としているメンバー、各々が得意とする分野で活動を楽しんでいました。

ボランティアの方からも「私はもう何も手を出さなくても子供達がどんどん進めてくれるので楽です。」とおっしゃってくださいました。

ポーレポーレを始めたばかりの頃には想像もできなかったメンバー達の成長に思わず嬉しくなり、そして、そこには何とも言えない和やかな雰囲気があり、目指してきた自分達の居場所になってきている事を実感したひと時でした。

O. B.



今年度最初の交流会は5月17日(土)に行いました。

今年はどのようなテーマで交流会を進めて行くのかを話し合い予定でしたが、当日、参加者が2名だったので、お互い子どもの学校での様子を中心に話をしました。

次回は7月5日(土)10:00~12:00 国分寺労政会館

T.T

# 散歩道



## 今の私を支えてくれる、恩師から息子へのメッセージ

「部活で、顧問の先生に伝言、ホントに簡単な伝言を職員室に言いに行ったんだけど、ぜんぜん何を言うのか、おもいだせなくてさ、部室に戻る廊下で泣いちゃった。」  
中三の息子が、こんな風にぼそっと呟くのは、初めてでした。今までは「だって、しょうがないじゃん！」と、開き直って笑ってごまかすか、不貞腐れるか。

受験を控え、将来の事を考える機会が増えてきた今、「こんな簡単な事も忘れてしまう自分」に、途轍もない不安や恐怖を感じてしまっただけの涙だったのでしょか？  
学校の先生方をはじめとして、周りの方へ「息子の困難をどうか理解して、ご協力を」と支援をお願いしながら一番の理解者で有るべき親のわたしは、真の苦しみを理解出来ないまま「どうして？」「また！」「いつになったら？」と、責め立ててしまいます。人には困難への理解を求めながら、毎日直面する問題を前に感情的に対処してしまう自分に苛立つ事を愚かにも繰り返してしまいます。

そんな時に読み返す息子の恩師からのメッセージがあります。

2年生までお世話になり、息子が自分の困難、出来る事出来ない事をまず自分で把握して、出来ない事を克服するために必要な事、手を貸して欲しい事を先生や同級生に自分でプレゼンする事を教えてくださり、授業に iPad 導入する支援をしてくださった先生です。

残念ながら、転任される事になり、その時に息子にいただいたメッセージです。

【Kくん、私は誰に対しても同じことを言ってきましたが、あくまで「先生」ではなくあなたに対する「支援者」でありたいと思っています。支援者というのはあなたが困った時にその答えを用意するのではなく、一緒に考えながらあなたが自分で答えを出せるようなサポートをしていく役割の人間です。もともと私は福祉の世界で生きてきたので、すべてのことを先回りしてあなたに与えてしまっただけは、あなたが将来自分自身で歩いていく妨げになると心の底から思っています。背中を押すように支え続けるのが私のやるべきことです。】

親としては、つい転ばぬ先の杖を考えてしまいがちですが、一人の人間対人間として彼を尊重し、支えられるよう私自身成長していきたいと思えます。

そして、支援して下さる方々への感謝を忘れずに、自分たちが助けていただいたように、自分たちが力になれるようになりたいです。

息子にいただいたメッセージですが、今の私を支えてくれる大事な言葉です。

K.

### 【編集後記】

手をつなぐ育成会の講演会に参加し、地域の支援事業所などが最初から卒業後の就労について関わることになるため、早い段階で相談窓口と連携を取ることを進められました。

T.M